

令和3年3月11日

京都府農林水産技術センター農林センター

高温及び今後の気象動向に対応した農作物の技術対策 農業技術情報（第6号）

大阪管区気象台発表の1か月予報（3月6日から4月5日）では、気温の高い確率が70%と見込まれています。農作物の生育が早まることが想定され、軟弱徒長や病害虫の発生に加え、寒気の一時的な南下による凍霜害の発生が懸念されます。

今後の気象状況と作物に応じた管理ができるように、以下の事項を参考に必要な対策を講じてください。

1 麦類

(1) 平年に比べ生育が進んでおり、生育が進んだ状態で寒気に遭うと、出穂期の凍霜害による不稔の発生が懸念されます。特に湿害は小麦の生育全体に悪影響を及ぼし、排水性の悪いほ場で低温に遭遇して不稔になりやすいことが考えられますので、排水対策に努めてください。

(2) 出穂期を的確に判断し、赤かび病の適期防除に努めてください。

＊赤かび病防除適期

二条大麦：第1回目は穂揃期 10 日後（蒴殻抽出期）

第2回目は 1 回目防除の 7 日後

小 麦：第1回目は開花始め（出穂約 7 日後）

第2回目は 1 回目防除の 7～10 日後

※遅れ穂や不稔の穂には赤かび病が発生しやすいので、適期防除に努めてください。

(3) 出穂期を的確に判断し、小麦の適期実肥施用に努めてください。

＊小麦の実肥施用適期

小 麦：出穂 10 日後（尿素葉面散布の場合は、赤かび病防除と同時散布）

(4) 遅れ穂の発生は収穫時に未熟粒の混入の恐れがあるため、乾燥・調製を丁寧に行ってください。

2 野菜

(1) 栽培管理

野菜類全般に例年と比べて生育が進んでいます。キャベツやタマネギなど追肥が必要な品目は、生育状況に応じて時期を早めるなど適期の施用に努めてください。ミズナなどの葉菜類は、獲り遅れにならないよう、適期に収穫してください。

(2) 育苗管理

育苗中の苗は、徒長傾向で軟弱になりやすくなっています。密植を避ける、追肥の量を調整する、トンネルのこまめな換気を行うことにより、健苗の確保に努めてください。

(3) 病虫害防除

病虫害の発生が早まることが予想されます。特にハウス栽培の害虫では、コナジラミ類、アザミウマ類、ハダニ類等は発生の早期化により大きな被害が懸念されます。発生予察情報や観察により発生動向を早期に把握し、早期の防除に努めてください。

3 茶

(1) 病虫害早期発生対策

- ①害虫類の越冬数が多くなり発生の早期化も懸念されるため、茶園の観察により害虫の早期発見に努め、適切な防除を実施してください。
- ②赤焼病は、強風や降霜により発生が助長されるので、防風ネットの設置や霜害の予防対策を実施すると共に、常発茶園では晩霜期にも銅水和剤などの散布により病害の拡大を防いでください。

(2) 霜害の予防対策

- ①今後高温傾向に推移すると萌芽が早まり、凍霜害の発生が懸念されるため、霜注意報等に注意し、棚等の寒冷紗被覆、防霜ファンやスプリンクラー等の凍霜害防止対策を行ってください。事前に防霜ファン、スプリンクラーの作動チェック、被覆資材の劣化やたるみのチェックをしてください。

(3) 霜害発生後の被害軽減対策

- ①被害にあった場合、2葉以上開葉していた茶園では、摘採時に被害葉が混入しないよう整枝面より上で被害部を刈り捨ててください。
- ②被害があった茶園では、カンザワハダニの発生が多くなるおそれがあるため、観察に努め、防除を徹底してください。

4 果樹

(1) 開花の前進化が見込まれる場合、開花期から幼果期における降霜及び予期しない低温による凍霜害の発生が懸念されることから、防霜用資材の準備や点検を早めに行ってください。また、花粉採取や人工授粉作業を適期に取りかけられるように、剪定や枝の誘引などの必要な作業は計画的に終わらせてください。

(2) 病虫害の早期発生が懸念されるため、果樹園での発生状況や病虫害発生予察情報等に留意し、適時適切な防除に努めてください。また、罹病部位の除去等ほ場の衛生管理に努めてください。